

こんぼくやま いそべ べんざいてんこふんぐん
16. 今北山・磯部・弁財天古墳群

所在地：鯖江市落井町・磯部町・乙坂今北町地係

調査原因：範囲内容確認調査

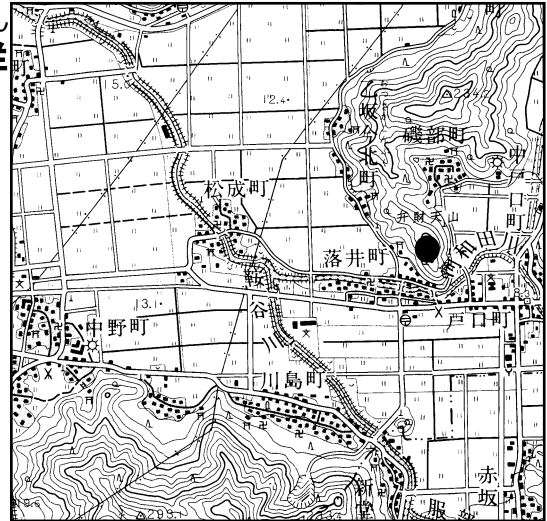
調査期間：平成 23 年 6 月 13 日～

平成 24 年 3 月 31 日

調査主体：鯖江市教育委員会

調査面積：約 500 m²

時代：弥生時代・古墳時代ほか



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 本遺跡は鯖江市東部の低丘陵に位置し、総数 63 基の古墳や墳墓（以下まとめて古墳と記述）が分布しています。とりわけ、今北山古墳群には丹南地域最大規模の今北山古墳（前方後円墳・全長 76m）ほか比較的大型の古墳が未調査ながら確認されており、その重要性から平成 16 年に市指定文化財（史跡）となっています。市では本遺跡の国史跡指定を目指し基礎資料を得るため、平成 22 年度から最も南側にある弁財天古墳群の発掘調査に着手しています。今回は前年度の課題を踏まえ、古墳の存在や形状が不明瞭な場所をはじめ、古墳と山城との関連性を明らかにすることなどを目的に広範囲でトレンチ調査を実施しました。

遺構 山城に伴う腰郭等の存在を想定していた弁財天山頂（標高約 120m）周辺において、断面V字状の溝状遺構や斜面をL字状に削り出した遺構を多数検出しました。溝状遺構は大きなもので幅 4m、深さ 3mを測り、排土を利用したとみられる土塁状遺構も一部で確認されました。これらは環状に巡るものと推測され、山頂平坦面を囲むように南北方向で約 150m、東西方向で 40～50mの規模になります。溝状遺構は、山頂両側では二重に巡るとみられる一方、西側の急傾斜地では巡らないようです。山頂平坦面に設けたトレンチでは住居跡の可能性のある遺構を検出しましたが、古墳に伴う墓壇の可能性もあることから、次年度以降面的に拡大して調査を実施する予定です。

このほか、前回の調査において円墳の可能性があるとされた場所において追加調査を実施した結果、その多くが古墳とは関連のない遺構であることも判明しました。

また、古墳群南側に分布する古墳の一般的な形状を確認するため、一部の古墳において面的な調査を実施しましたが形状および築造時期については判然としませんでした。

遺物 山頂周辺のトレンチを中心にコンテナ 8 箱分相当の土器が出土しました。煤が付着した甕や壺、高坏など生活に伴うものが多く、弥生時代後期前半のものが中心です。これらの土器は、近江系と呼ばれる滋賀県通有の土器の形や施紋方法がみられるものばかりでした。古墳に伴う遺構から出土した土器は細片が多く、詳細については慎重な検討が必要です。

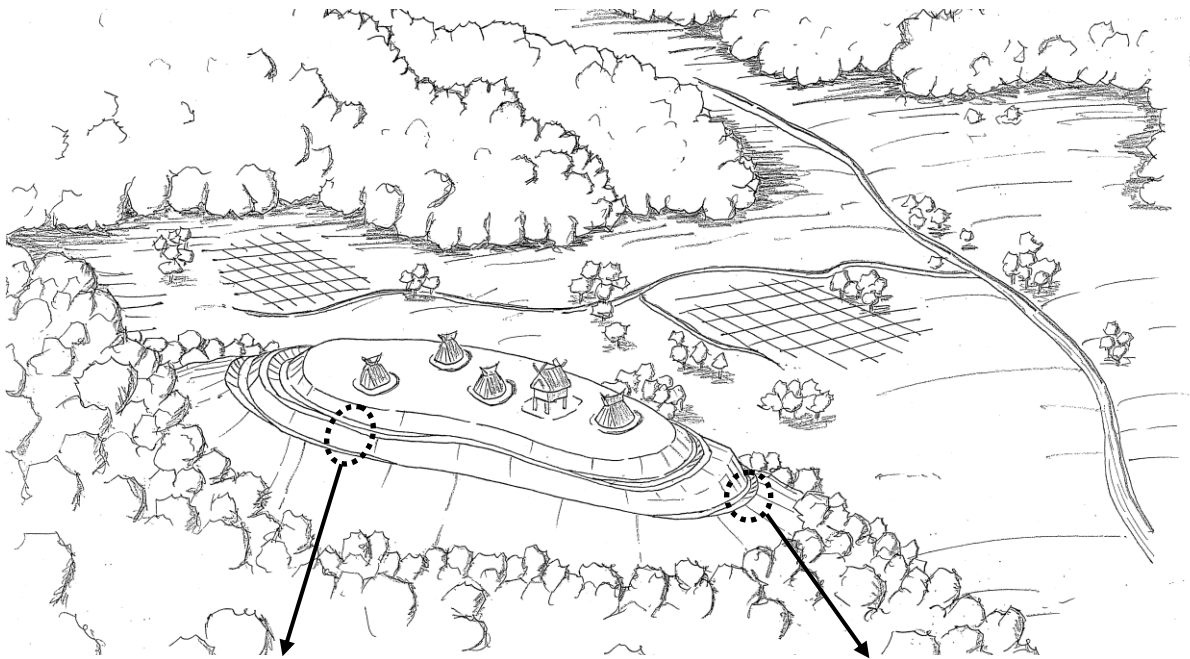
まとめ 弁財天山頂周辺において確認された溝状遺構については、遺跡の立地や出土遺物などから、弥生時代後期前半の高地性環壕集落に伴う環壕と考えられます。同種の遺跡は西

日本を中心に発見されていますが、福井県では初の事例で、北陸3県においても最古級の事例と考えられます。ただ、弥生時代中期から後期にかけての丹南地域の集落遺跡の動向については不明な点が多く、当遺跡の評価については今後の調査事例の蓄積が待たれます。

次年度も、弁財天山頂付近において具体的な生活痕跡の確認を行い遺跡の性格をより明らかにするとともに今回の調査において課題となった点についても検証を行う予定です。

(深川 義之)

環壕内部が集落だった場合の復元イメージイラスト



溝状遺構（環壕）検出状況